

平成26年度第3回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

- 1 日 時： 平成27年1月16日（金）午前10時30分～正午
- 2 場 所： 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者： （委員）
白土委員、柳下委員、山本委員、市原委員、藤本委員
（事務局）
大堀所長、齋藤主査、葛巻主任主事
（日本写真判定株式会社 以下JPF）
渡辺代表取締役、町田代表取締役専務、小宮事業長、荻原事業長代理
高橋事業長代理、石塚事業長代理、邊田事業長代理、青野
- 4 報告事項
（1）委員の改選について
（2）委員長の選任について
- 5 議 題
（1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（10月～12月）
（2）委員会提案事項の報告について
- 6 会議経過
（事務局 齋藤主査）
 - ・報告事項（1）委員の改選について、森前委員長の退任に伴い全国競輪施行者協議会より推薦された柳下委員が新たに委員として会議に参加する。
 - ・報告事項（2）委員長の選任について、千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会設置条例第4条第2項に「委員長は、委員の互選により定める。」と規定している。事務局としては、前委員長の後任である全国競輪施行者協議会の柳下委員にお願いしたい。皆様の意向はいかがか。

（柳下委員）
私は今回初めて参加するので、同じ競輪の専門委員である白土委員を推薦する。

（事務局 齋藤主査）
白土委員の声が上がったがいかがか。

（異議なし）

(事務局 齋藤主査)

委員の承認があったので、当委員会の委員長に白土委員を選任する。議事進行を白土委員長にお願いする。

(白土委員長)

議題に入る前に、千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会設置条例第4条第4項に、「委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。」規定があり、職務代理を柳下委員にお願いする。

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて及び議題2の委員会提案事項の報告についてJPFに説明を求める。

(JPF)

議題1及び議題2について、資料に基づき下記の項目を説明。

- ・包括業務委託の進捗状況
- ・前回委員会提案事項の報告
- ・売上・事業計画進捗報告
- ・ネクストステップⅠ
- ・ネクストステップⅡ
- ・モニタリングの振り返り

(白土委員長)

事務局にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 齋藤主査)

- ・受託者から提出のあった平成26年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・10月～12月の開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(市原委員)

本場の入場者の平均が平成26年度を見て前年比で90.99%と減少しており、購買単価は106.58%という事で上昇している。数量が減ったけれども単価が伸びた。本場売上全体としては96.99%とやや下回ったものの、ほぼ横ばいと言える。

全国の競輪場の状態と千葉競輪場の状態をについて、全国の状況を把握している白土委員長と柳下委員に教えていただきたい。

(白土委員長)

残念ながら、全国的に入場者の減少傾向が続いている。売上は、色々なチャンネルを駆使して購買機会を増やして、今年是对前年比100%を超えると思う。

(市原委員)

本場の売上としてはいかがか。千葉競輪場はほぼ横ばい。全国ではいかが。

(白土委員長)

本場売上が全体の車券売上に占める割合は約7%まで落ちている。その他は場外やインターネットで売っている。来場者の減少、本場売上の減少は、全国的な業界全体の問題。

(市原委員)

今回注目したいのは購買単価の上昇。どう分析しているのか。

(J P F)

一概には言えないが、昨年度、競輪場自体をお客様にとって使いやすいように、車券売場をコンパクト化して、車券を購入しやすいように改修した。競輪を集中して見られるということで購入単価が上がっていると考えている。

(市原委員)

平成24年度と同じ水準まで購買単価が戻ったということで、全国的にも同じような傾向があるのか。

(柳下委員)

購買単価についてはどこの競輪場も同等か下降傾向がみられる。

(山本委員)

場内の広告収入は、誰の収入になるのか。

(J P F)

施設関係のテナント契約は全て千葉市の収益。

(山本委員)

来年度の開催日程について説明を求める。

(柳下委員)

平成27年度上期の本場開催日程については確定していない。日程については全輪協がまとめている。それぞれの地区で調整して、最終的に全国を調整する。実質的にはまだ確定ではないため、公表できない。開設記念競輪は日程が決まっている。

千葉競輪開設記念は昨年と同様10月。年金の支給月で、年金が出た直後で非常に良い日程だと思う。

(山本委員)

施行者間の日取りは公平に決定しているものか。

(事務局 齋藤主査)

地区ごとの施行者間の協議で公平に決めている。

(山本委員)

日程は車券売上額に大きな影響を及ぼす。どのように日程を調整しているのか。

(事務局 大堀所長)

南関東地区で集まり 開催日程を調整する。その後全国7地区で調整を行う。

(山本委員)

千葉競輪場の車券売上額はどのくらいのランクか。

(事務局 齋藤主査)

南関東地区、関東地区を合わせて、下から2番目程度。

(山本委員)

今年の修繕内容は。

(事務局 大堀所長)

ウォークトップについては、各場2年に1度程度の修繕だが、千葉市はかなりの期間修繕していないので、修繕を予定している。

(山本委員)

ウォークトップの修繕費は市の負担か

(事務局 大堀所長)

そのとおり。

(山本委員)

予算はどのくらいか。

(事務局 大堀所長)

5千万円。

(事務局 齋藤主査)

修繕については今後の千葉競輪場の方針によりできなくなる可能性もある。

(山本委員)

委員会として出来る事は、民間の知恵を使って千葉競輪場を活性化させることではないか。

(J P F)

- ・バンク走路面等の施設修繕においても J P F と千葉市が協議している。バンクの中に今まで他の競輪場にはない、新たなセンサーを入れてチップで計測できるようなシステムを構築できる。
- ・バンク走路面の修繕は数か月かかるため、開催日程に影響する。前回の会議で開催日程案をもらい、修繕の予定日が7月・8月と記載されていた。事前に協議できれば、スケジュールを含めて千葉競輪場にとって良いものを提案できた。

(事務局 大堀所長)

施行者と包括受託者は一心同体。連絡は密に取ってきたつもり。包括委託の効果はかなりあったと感じている。予想以上の収益も出た。

(市原委員)

飲食のコンテンツについて、モニタリングの資料では飲食店のメニュー表示に関してだとか新店舗を誘致したような新しい活動もあるが、既存の飲食店はどうなっているのか。飲食コンテンツは極めて重要な部分だと思う。

(事務局 大堀所長)

飲食店についてはケアしなければいけない部分だと思っている。1年ごとに千葉市が契約している。結果的に毎年同じような方と契約となっている。9店舗ある中で一番新しいのはインドカレー屋。1つ空いている食堂に対して J P F の提案を受けたい。

(市原委員)

包括委託という括りで我々も考えていたが、正確にいうと包括委託ではなく一部委託していない業務もあるということか。

(事務局 齋藤主査)

競輪場は千葉市の財産であり、J P F が借りる場合には、千葉市公有財産規則に則って進める必要がある。

(市原委員)

一般的にプロデュースする方に全部預けた方が、整合性をとれる。例えば三井不動産とららぽーとの関係など。全部渡してしまう事のリスクがあるのか。

(事務局 大堀所長)

公共施設の貸し出しの部分の契約などを整理する必要がある。公有財産の貸し出しに則る形で整理しなければならない。

(柳下委員)

既存の業者は公募とはいえ、今いる業者を行政の立場として排除するのは難しい。空いている場所があれば、積極的に競争させた方が良い。

(J P F)

- ・ 1か所に店舗を出す場合は、結局競輪場の中のお客さんの取り合いになる。やはり施設全体のランドデザインをしなければ意味がない。
- ・ もし、全体で企画できるのならば、(サイクルショップ、サイクルカフェ及びコンビニを設置した自転車愛好家及び女性客又は地域の方々の集いの場になる)「サイクルパーク」のようなコンセプトで開放的に設計する。飲食も任されるのであれば、お客様を呼べる施設にできる。一部のみでは勝負できない。

サイクルショップ及びサイクルカフェを設置。加えてコンビニを誘致し、自転車愛好家及び女性客又は地域の方々の集いの場になる開かれた競輪場を目指します。

(柳下委員)

10月から12月の報告にあるタウンバスについて、屋外広告の効果はどうか。かなり目立つ広告で、効果はどうだったのか。

(J P F)

パルコ前から10時・11時・13時・15時の4回。広告に関しての効果は今のところ不明。乗車数は1台に40人ほど。

(柳下委員)

特に記念競輪に若いお客様をどう誘引していくか。民間ならではの広告なので、出来る限り続けて、車券を買ってもらうための仕組みづくりを進めてもらいたい。

ミッドナイト競輪は提案として面白い。ただし、ナイターとミッドナイトの時間というのは約20分ぐらいしか空いていない。前も後ろも発売が被る。9時以降だと警察協議で場外発売できない。インターネットでしか車券を発売できない。課題は相当ある。ナイター競輪はメインレースが後半に集中するため、勝負しても勝てない。ミッドナイトは9時から始まる。ナイター競輪は枠が埋まっているので、それを考えていくと、ミッドナイトもかなりの倍率がある。そうすると、モーニングを考えるのも一つかと、モーニングは若干空きがある。

(J P F)

日本競輪選手会千葉支部からも、是非、新しい取組を千葉競輪場から進めていきたいと意見をもらっている。ミッドナイトでガールズに走ってもらうとか、色々組み合わせることによって向上策とかもある。ナイターの枠が厳しいことも知っている。施行者と一緒に進んでいきたい。

(白土委員長)

議題 1 及び 2 について了承。